

## 平成 30 年度 第 1 回 内灘町子ども・子育て会議 議事録(要旨)

日 時	平成 30 年 12 月 20 日(木) 14:00～15:00
場 所	内灘町役場 1 階 101 会議室
出席委員	高野史朗、番匠尚、塩谷佑子、表井美智恵、本弘美、岡田順子、岩崎多恵、北川ゆかり、荒船眞由美
事務局	上島町民福祉部担当部長、高平子育て支援課長、高木子育て支援課課長補佐、西村子育て支援センター所長、長谷川子育て支援センター事務担当

### 1. 委員長挨拶

### 2. 議件

#### (1) 保育施設入所児童数及び学童保育クラブ入所児童数について(資料1)

※委員からの主な意見と事務局からの説明

(委 員)・平成 31 年度保育施設への入所者数の見込みについて詳しく説明を。

(事務局)・10月末現在で一度申し込みを打ち切っているが、その後随時受付もしている状況であるため、入所者は増えると予想している。

#### (2) 向陽台保育園の認定こども園への移行・利用定員について(資料2)

※委員からの主な意見と事務局からの説明

(委 員)・向陽台保育園の現在と、認定こども園に移行したらどのように変わるのか。

(事務局)・利用定員は90人であるが、認定こども園へ移行するにあたり、1号認定の子どもの利用定員が5人となり、2号・3号認定の利用定員は85人に変更となる。保育所の場合、保護者が仕事を辞めた場合退所しなければならない。認定こども園の場合、仕事を辞めても1号認定への切り替えで引き続き入所できるようになる。

#### (3) 子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査について(資料3(1)・(2))

※委員からの主な意見と事務局からの説明

(委 員)・ニーズ調査の内容は1期の内容と同じなのか。

(事務局)・基本的には同じ。未就学の方に関しては、調査項目が追加された。

(委 員)・育児休暇中で休職した場合、上の子は預かってもらえるのか。

(事務局)・希望があれば預かっている。

- (委員)・外国人の方で、勉強で学校等に通う場合一時的にお子さんを預けられるのか。
- (事務局)・町内在住であり、勉強のためという事であれば受けられる。医科大の外国人の研修生のお子さんも複数預かっている。
- (委員)・虐待や気になるお子さんの支援について内灘町ではどんな対応をしているのか。窓口はどのように整備されているのか。
- (事務局)・子育て支援センターが窓口。要保護児童に関してはケース会議を2ヶ月に1回開催している。実務者会議と代表者会議は年に2回開催している。小学校の先生が集まる会議、保育園の先生が集まる会議を各2回ずつ開催している。他に、障害ではないか等、気になる子の数が増えてきているため、保育園でもその子だけに付く様な対応をしている。

#### ●議件4 その他 意見

- (委員)・オレンジリボン講演会に参加した際に、この様な取り組みを一般の方にも広く認識してもらえる様に考えてもらいたいと感じた。また、年々ボランティアが不足している現状において、参加者を増やす体制作りをしてもらいたい。
- (委員)・働き方改革による子ども達の保育の仕方の変化や必要な時間の変化など、第2期の調査を受けて、期待と不安があるが、結果が楽しみである。
- (委員)・現在、子どもの体調不良や発熱に伴い、仕事を切り上げて迎えに来てくれる親御さんが多い状況だが、ニーズ調査に合わせて得られる本音なども興味深く思っている。
- (委員)・ボランティアが減少しているのは、65歳まで年金がもらえない等、様々な理由で自分の為に働く人が多いから。どれだけ人の為に何かを出来るのかはもっと大きな社会問題になると思う。ニーズ調査の結果が出れば問題を抱えたお母さん達の悩みをどのように解決するかが分かると思う。悩みを何処に相談するのか分からない人達にも教えてあげて欲しい。私達もこれまで以上に啓発活動をしていきたい。
- (委員)・今からの感染症の季節に、インフルエンザや胃腸炎は小学校や幼稚園から連絡が来るが、他のところの情報が分からない。内灘町全体で「どこどこが出た」など教えて欲しい。他の地区の子と遊んでうつってくる事もあるので、全体のメールサービスがあると助かると思う。
- (委員)・最近身近な所で、小学校・中学校の不登校の話をきく。家庭の中や先生との相談だけでは解決できない時に、まず何処に相談したらよいかを教えて欲しい。
- (委員)・先日のオレンジリボン講演会で、「児相の専門のほうに相談をして欲しい」という話を聞いた。児相は虐待だけではなく、子ども全般の相談にも対応している。第三者的な立場の方にも聞いてもらうのが必要だと感じた。

(事務局)・町内にステップという登校拒否のお子さんが勉強する場所がある。定期的に心理の先生や退職された先生がいてお母さんや本人の相談にのったりする場所である。

(委員)・それは小学生でも中学生でも？

(事務局)・小さいお子さんの場合は子育て支援センターに連絡して色々話をする。私は情報を繋ぐ仕事をしているが、知り合いのお孫さんの友達が学校に行けなくて困っていると相談をされた時は、ステップへ話を通して通えるようになった。春に様子を見に行くと、通っている全員が次の学年では学校に行っていると聞き、感心した。何かあれば声を掛けて欲しい。